

巻 頭 言

毛谷村 英 治

立教大学 観光学部 学部長

東西冷戦構造の時代に比べると、人々の人権は守られるようになり、平等主義も広く浸透してきました。そして、国境の通過も一部を除き容易になっています。旅そのものについて考えてみますと、移動手段が増え、利便性に加えて安全性が高まりました。ルート検索や予約が容易に行えるようになっただけでなく、チケット購入も簡便になっています。宿泊施設は利用者の要望に応じた検索や予約が容易に行えます。これらはIT化が進んだ結果によるものですが、国々の枠組みを超えて自由に旅ができるようになり、世界中が一つに繋がるのではないかと思えるほどの変化です。

近年急激に増加している訪日外国人旅行者の消費行動に変化が生じています。自国で利用できるネット通販を利用することで日本滞在中はモノの購買よりも自らの体験に時間を費やすようになってきたようです。個人旅行が増えており、スマホを頼りに旅するため、これまで観光客が訪れなかったようなところまで言葉の通じない外国人観光客が入り込み、トラブルが生じることもあります。

IT技術の発達と普及により従来は知り合うことのなかった相手との契約が取り交わされるようになりました。結果として、素人が商売をしたり、現地のことに詳しくない個人が旅をしたりすることが可能になったのです。もちろん、治安の悪い地域では事件に巻き込まれたり、危険に遭遇したりすることもあり得ます。こうした個人旅行は、治安が良く、利用できる空き家が多い日本だからこそ急速に普及し、発展し得る旅行形態なのかもしれません。今後、ますます事業として拡大していくことが予想できます。街の賑わいを取り戻し、地域住民の生活に還元するためにはこのような旅行形態を無下に禁止するのではなく、対策を練ったり、普及を促進するためのルールを整備する必要があります。観光学の視点からも注目しておかなくてはなりません。

今年度末は、こういった観点から観光現象を見据えて学ぶ学生たちにとって欠くことのできない大切な知識を教授して下さいましたお二方の先生が退職されます。

志賀典人先生は、大手旅行会社での長年にわたる経営実務から得られた知見を元に、日本で培われた旅行業の業務内容とその発展の様子、課題について最新の事例を交えてご講義くださり、多くの学生の演習指導にもご尽力くださいました。

田代泰久先生は、観光学を学ぶ学生たちに観光をめぐる新しいビジネスの動きを伝え、起業行動を左右する諸要因を経済的側面に加えて歴史的、文化的、そして社会的背景にまで広げた比較を通して、分かりやすく講義して下さいました。また、起業金融についてもインフォーマルキャピタルを中心に学生たちを熱心に指導して下さいました。

両先生の薫陶を受けた卒業生が、次世代の観光の現場のメインストリームとなるであろう新しい動きを牽引し、今後の観光業界の重責を担う逸材に育つであろうことは疑いようがありません。

観光学部を導いてくださったお二人の先生に改めて深く感謝を致します。